「主体的・対話的で深い学び」へ

広島湾ベイエリア・安芸太田町

人情田舎体験
絆の大切さじっくり学ぶ

広島県北西部に位置する安芸太田町は、西中国山地国定公園など豊かな自然環境に囲まれた県内で唯一、山地率90％を超える山間の町で、そんな山里が広島市中心部から車でたった45分と近くにあります。昔も今も人々はお互いを思いやり、先祖を敬い、命の大切さを生徒たちに伝えながら暮らしてきました。

広島県内最少人口（6700人弱）でありながら、地域の結束の象徴であるお寺は30以上、神楽団は17団体、消防団活動が盛んなことなどから、人々の「絆」が極めて強い町です。人情あふれ、絆を大切にする家庭へ民泊するからこそ、日本が古くから大切にしてきた「互いを思いやり、人と人とが協力しながら生きることの大切さ」を考え、学んでいただくことができます。

受け入れ家庭は現在74軒で160人の受け入れ（隣接する北広島町との合同受け入れでは400人）が可能です。教育旅行にかける想いを共有した家庭の皆さんは、日本の将来を担う若者たちに接することを喜びとし、全国の生徒に会えることを楽しみにしています。

皆さん、人情田舎体験のまち安芸太田町へきんさいや！（来て下さいね！）

人情田舎民泊体験（ホームステイ）

民泊体験では、都市部では希薄になりつつある人と人との信頼関係、家族の絆、命を育む大切さ、命をいただくことの有難さなど身をもって学びます。山間部ならではの食生活、保存食や伝統料理などを取り入れた共同調理を通じ、食育を学ぶ絶好の機会となります。

受け入れの主力は人口の48・5％（県内1位の高齢化率）を占める高齢者です。数十年後、日本が必ず直面する「超高齢化社会」が既に到達している当町で民泊体験をすることで「超高齢化社会」を具体的に理解することになり、若者に将来の日本を考えていただく機会となることでしょう。

おすすめ体験1・太田川ラフティング

安全管理教育を徹底的に施されたインストラクターが指導し、約3㌔のコースを全員の協力の下、2時間程度で下ります。決して激流ではない当町のラフティングは、力を合わせることを主目的とし、「教育旅行的素材」としては十分な効果があり、かつ安全性を兼ね備えた教育旅行向けラフティングです。（5月26日～6月6日を除く）

おすすめ体験2・安芸太田式平和教育

当町には現在500人以上の被爆者が生活しています。原爆投下直後の凄惨な状況はもちろんですが、71年にも及ぶ長い人生をどんな思いで生きてこられたか、そしてどんな辛苦に耐え、日本の復興を支えてきたのかを60～80人ごとに車座で意見交換する相互意見交換型の講話体験を提案しております。平和公園で資料館を見学した後、町内にお越しいただき、安芸太田式平和教育を受けると教育効果が大変大きいと考えております。

おすすめ体験3・神楽よさこい

生徒たちが将来社会に出た時、いかに自分の考え方と違う人間と上手く折り合いをつけて一緒のビジョンを見ていくかが重要で、志の共有や組織をどう作り運営していくかが必要です。地域の伝統芸能、神楽をよさこい調にアレンジし、太鼓や笛の音をバックに踊ります。さまざまな役割を決め、進めることでチームワークが醸成できます。

絆や命の大切さを身をもって学ぶ人情田舎民泊体験

語り部を囲んで平和学習

太田川でのラフティング

神楽よさこい練習

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興チーム内）
担当（大巳・楢崎）
営業時間　月～金曜日　8：30～17：30（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-222-6641　FAX 082-222-6411
E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp
URL http://www.hiroshima-bayarea.net/

広島湾ベイエリア・庄原市

さとやま体験
心の温もり・繋がりを体感

広島県北東部に位置する庄原市は、中国山地のほぼ真ん中に位置し、島根県、鳥取県、岡山県に隣接しています。2015年3月には尾道と松江を結ぶ中国横断自動車道「中国やまなみ街道」が全線開通し、山陽と山陰を結ぶ中継拠点として世界遺産や文化遺産・自然遺産を巡ることができるようになりました。

庄原市では、夏の新緑や秋の紅葉、冬の雪など、さとやまの四季を彩ります。また、農業生産量が広島県内最大級と農業が盛んで、穀物、野菜、果樹、畜産などその形態も多様です。このような資源を生かし、豊かな自然や農林業などを中心に、庄原市全域でさまざまな体験プログラムが整備され、四季を通じて体験することが可能です。

心を育む民泊体験

庄原市の民泊体験では、生徒の皆さんを飾ることなく、家族の一員として迎え入れ、一緒に笑い合ったり、協力しあったり、時には叱ったりと、同じ時間を共有し、人との絆や温もりを感じていただきます。家業体験では、共通体験を通じてコミュニケーション能力の体験していただきます。

現在、庄原市では14軒の受け入れ家庭があり、320人程度の受け入れが可能です。また、より多くの地域住民に参加してもらうため、登録家庭の拡大に努めております。400人までの受け入れにつきましては一度ご相談ください。自然きることを期待します。

■おすすめプログラム

ラフティング体験

8人乗りの特殊なゴムボートに乗り込み、みんなで力を合わせて川を下る「ラフティング」はチームワークと主体性の醸成に最適です。フィールドとなる西城川（全長約5㌔）は江の川の源流で美しく、中国山地の大自然を満喫することができます。また、古来より舟運として利用され、今もその名残りを垣間見ることができ、チームワークの醸成だけではなく、歴史、地学、環境学など多岐にわたって学べるプログラムです。

スポーツ雪合戦

「YUKIGASSEN」として世界中に広がり、国際大会も実施されているスポーツ雪合戦。庄原市では、西日本最大規模の雪合戦大会が開催され、春から秋にかけて体育館で練習が行われます。16年の全国大会では小学生、レディース、一般の3部門で優勝をするほど全国でも屈指の強豪地区になります。戦略、戦術を必要とし、チームビルディングが勝利の鍵。瞬時の状況判断力とアクシデントにも動じない精神力、何よりチームワークが問われる戦術性の高いプログラムです。

森林間伐体験

田舎では人口減少・少子高齢化に伴い、耕作放棄地の増加や山林の保全管理が困難になっています。学習指導要領の改訂に伴い教育現場では「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」が求められています。探究型の地域社会貢献プログラムとして、枝打ちや間伐体験を用意しています。この体験を通して、中山間地域の抱える課題を理解するとともに、持続可能な社会の実現を模索していきます。

家族の大切さや人の温かさを感じる民泊家庭での団らん

西城川でのラフティング

高野で開催される雪合戦大会

形成を図ります。「知識では分かっていても実際に体験すると上手くいかない」という経験と、そこから自分で学び、達成感、充実感を味わうことも重要なポイントとして形成を図ります。「知識と寄り添う里山の生活と、そこに生きる人の英知には人を育む力があります。21世紀の日本を担う未来ある子どもたちのために、今、庄原の「人と資源」が大きく貢献できることを期待します。

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興チーム内）
担当（大巳・楢崎）
営業時間　月～金曜日　8：30～17：30（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-222-6641　FAX 082-222-6411
E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp
URL http://www.hiroshima-bayarea.net/

徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町

日本の"ほんもの"田舎暮らしを体感
――にし阿波

その昔、徳島県の都市部に住む人々は自分たちが住む場所よりも標高の高い当地のことを「そら」と呼びました。「そらの郷」は素朴で開放感のある当地の愛称です。そらの郷は四国の中央に位置する「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）にあり、西日本第2の高峰「剣山」と四国三郎「吉野川」からの恵みを受け、古き良き素朴で温かみのある暮らしが今も息づいています。

ほんもの田舎体験

地域内約160軒、同時受け入れ人数約450人となるにし阿波の教育旅行の受け入れ家庭は、その多くが山腹の急傾斜地に張り付くような集落にあり、独特の文化的景観を形成しています。また、古来よりその地で暮らしてきた先人の知恵や技術が生活の中に受け継がれており、自然と寄り添い生きる人々の暮らしとその風景はまさに日本の原風景そのものです。

そんな暮らしの中に生徒たちは家族の一員として迎えられ、茶摘みやタマネギ、ジャガイモの収穫などの農作業を手伝います。収穫した新鮮な野菜や山菜を使い、田舎料理を共同で調理します。地域に伝わる郷土料理や、そばを打つところから作るそば作り、自分たちで切った竹を使って器や箸、そうめんを流す台を作り行う流しそうめんなど、家庭によってさまざまな体験ができます。

家族みんなで作った料理を囲み、その日にあったことやお互いの暮らしの話をし、家族とのコミュニケーションが生まれます。ありのままの田舎の暮らしを通じて、農林漁家の生業の大変さ、不便さを知り、それに挑む精神力や工夫する創造力を身につけ、乗り越えた時の達成感や感動、家族との交流を心に刻み、「生きる力」と「心の豊かさ」を育みます。

受け入れ家庭やインストラクターは、民泊の研修会や安全講習を受け、危機管理や安全対策に対する体制を整えています。地域文化の誇りと素晴らしさを伝えるため、「安全・安心」の生活体験構築に努めています。

ラフティング

日本三大暴れ川の一つであり、四国三郎の異名を持つ吉野川は、世界有数のラフティングコースで、2017年10月には日本初の世界大会が開催されます。荒々しく雄大な吉野川の流れが、そらの郷の山並みを深い渓谷で刻み、厳かで美しい景観が楽しめます。

そんな吉野川を仲間たちと力を合わせてボートを操り激流を乗り越えて、チームワークの形成や達成感を味わいます。また、頼れるリバーガイドが川や自然との付き合い方を教えてくれるので、ラフティングを通して、全身で吉野川の魅力を感じることができます。

傾斜地に点在する集落で古き良き素朴な暮らしを体験

伝統のそば打ちを体験

山里で農作業体験

昼食やおやつを共同調理

日本初の世界大会の舞台となる吉野川でラフティング。仲間や自然との一体感を存分に楽しめる

一般社団法人 そらの郷
営業時間　平日8：30～17：15
※内容のお問い合わせは事務局・小川までお願いします
〒778-0003 徳島県三好市池田町サラダ1893-1
TEL 0883-76-0713　FAX 0883-72-0753
E-mail:sora@cn05.awaikeda.net
URL http://www.soranosato.jp/

和歌山県・南紀州

ほんまもんの感動体験で心豊かに
海かがやき 山ひびく 清流の里 南紀州

紀伊半島の南部に位置する和歌山県南紀州エリアは、歴史ある温泉地と、農林漁業を生業とする地域です。「ほんまもん体験」は、1次産業が盛んな日置川地域を中心に各地で受け入れをしています。山、川、海と三拍子そろった自然の中で地域の多くの人たちと交流し、さまざまな体験を通して主体的、対話的な深い学びにしていただきたいと思っています。より効果的な活動となるよう、地域の魅力と課題について提案シートを作成していますので、テーマを探し事前学習をしていただきたいと思います。

農林漁家生活体験（民泊）

民泊協力家庭が150軒。1軒に3、4人として400人の受け入れが可能。民泊では半日、1日などの家業田舎体験、または選択式で「ほんまもん体験」を選べます。

各民家では、お客さまではなく家族の一員としてお迎えし、作業を手伝い、祖父母の世代と交流し、家庭の団らんを味わい「心豊かな田舎の暮らし」を体験します。

食事はなるべく自家食材とし食材を採りにいくところから始め、新鮮な野菜や魚が「ほんものの味」を教え、日本の伝統料理、郷土料理のおいしさに気づかせます。共同調理は、魚さばきに挑戦し、「魚の目が怖い」とキャーキャー言いながらも生物の命をいただいて生きていることに感動し、たり、また野菜のみじん切りができるようになったと喜んだり、楽しい交流の場であり、学びの場となります。

民宿での分宿

地域内には10軒の民宿があり、クラス別、男女別で分宿できます。

品質・安全対策

安全で教育効果の高い受け入れ実施のため、防災対策と衛生対策の指導責任者を置き、年度初めに保健所、消防署による講習会を開催し、安全管理、衛生管理を徹底。またインストラクター研修会、民泊研修会、地区懇談会を随時開催し会員の資質の向上を図っています。特に災害時の避難地図を作成し、緊急連絡体制を整え、安全対策には万全を期しています。

■おすすめの体験

農林漁業、伝統工芸、歴史文化、味覚体験など和歌山らしいプログラムが地域内でそろいます。

一本釣り体験

漁船に乗り太平洋の大海原に出ての一本釣り体験。地元漁師の案内のもと、黒潮海流での漁を体験し、とれたての魚を食べる食育で漁食文化への理解を深化させます。

林業間伐体験

紀州木の国で山を守り育てる林業は環境学習であり、間伐体験はノコギリを使って木を倒し、危機管理も学習します。

リバーカヌー体験

県立自然公園、清流日置川をカヌーツーリング。木材を川流していた時代と同じルートを通り、人々の暮らしを守ってきた川文化を学びながら川面に鮎の跳ねるのを間近に見る野趣あふれる感動体験です。

アクセス

近畿自動車道「紀勢道」が開通し、「南紀白浜IC、日置川ICが完成。新大阪からバスで2時間30分。JR特急くろしおでは、新大阪から紀伊日置駅まで3時間弱（貸し切り臨時列車利用＝紀伊日置駅発着可能）。

もう一度行きたくなる感動体験「南紀州ほんまもん体験」に地域一丸となって取り組み、皆さまのお越しをお待ちしております。

とれたての魚を手に。民泊先の家族と

リバーカヌー体験

一本釣り体験

民泊家庭での共同調理

一般社団法人　南紀州交流公社
担当：佐本　真志
〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居306-1
TEL 0739-53-0055　FAX 0739-34-5010
E-mail: minamikishu@samba.ocn.ne.jp
URL http://www.minamikishu.com